

## 全校朝会 「考える力を大切に ―ノーベル賞 坂口志文さん・北川進さん―」

令和8年3月2日（月）

奥沢小学校長 前田 恵里

10月6日の全校朝会でノーベル賞を受賞された真鍋さんのお話をしたちょうど次の日。大きなニュースが飛び込んできました。日本の方2名がノーベル賞を受賞されたというニュースです。ノーベル賞とは、1901年から始まり、「世界の人々にとって、最も役に立つことに力を尽くした人」へ贈られる世界的にとっても名誉ある賞です。ノーベル賞には、物理学賞、化学賞、生理学・医学賞、平和賞、文学賞、経済学賞の合計6つの賞があり、これまで31人の日本人が受賞しています。



本校図書室蔵書

今回の受賞者は、ノーベル生理学・医学賞に坂口志文さん、ノーベル化学賞に北川進さんです。今日は、お二人がどんな研究をされたかをお話します。少し難しいところもありますが、できるだけ分かりやすく紹介しますので、一生懸命に聞いてください。

まずは、坂口志文さんです。私たちの体には、「免疫」といって体を守る仕組みがあります。ところが、体を守るための仕組みであるのに、免疫が強すぎると自分の体を傷つけてしまうことがあります。坂口さんは、免疫の力をちょうどよくコントロールする「制御性 T 細胞」を見つけました。このイラストを見てください。～（中略）制御性 T 細胞の働きを図解～

次に、北川進さんです。北川さんは、「MOF」というとても小さな穴がたくさんある不思議な材料を作りました。この材料は、金属有機構造体とも呼ばれます。MOFの特徴は、穴の大きさや形を自由に設計できます。また、ねらった分子（ものをつくっている小さなつぶ）をくっつけることができます。これを使って、地球温暖化の原因となっている二酸化炭素を集めてへらしたり、新しい燃料を安全にたくわえたり、水だけを取り出したり、有害なガスを集めたりすることができるようになります。将来、地球の環境問題やエネルギーの問題を解決する力になるかもしれません。

坂口さんは、「治療法は必ずあると信じ、興味を持ち続けました。」と、北川さんは、「興味のあることはどんどん自分で勉強しました。」とお話されています。お二人とも、研究の途中で周りの人から、「それは無理だよ」などと否定されたこともあったそうです。しかし、あきらめずに粘り強く取り組み、このような結果を出しました。また、お二人はAIについて次のように話していらっしやいます。「AIは便利だけれど、最初のアイデアは人間が考えることが大切」、「何が新しく、何が大切かは人間が決める」。お二人の考えに共通しているのは、「AIは便利な道具だけれど、本当に大切なことは人間が考えて判断する。」ということです。AIを上手に使う力と自分で考える力の両方を大切にしていましょう。

偉業を成し遂げた方々の言葉には重みがありますね。1年間、全校朝会で児童のみなさんに様々なお話を通して大切なことを伝えてきました。最後は、奥沢小学校が大切にしている「考

える力を身に付けることが大切」というお話でした。どんなに技術が進歩しても人間が考える力はこの先もずっと大切であることが、ノーベル賞を受賞された方のお話から分かりましたね。人間が考えるから、社会を豊かにし、夢のある未来を作ることができます。人間が考えるからお互いに優しい気持ちで行動し、平和な社会を作ることができます。来年度も考えることをあきらめず、課題に挑戦し、失敗してもねばり強く取り組んでいく1年にしましょう。